

令和3年度第2回福井市総合教育会議 議事録

1 日時 令和3年12月24日(金) 開会 13時30分 閉会 14時50分

2 場所 福井役所本館3階 庁議室

3 出席者 福井市長 東村 新一
 教育長 吉川 雄二
 教育委員(教育長職務代理者) 春木 伸一
 教育委員 木村 敦子
 教育委員 多田 和博
 教育委員 宮郷 美千代

4 事務局職員

<総務部>

総務部長 塚谷 朋美
 総合政策課長 中村 直幸

<商工労働部>

観光文化局長 村本 貴史[※]
 文化振興課長 林 美樹子[※]
 自然史博物館長 谷本 修[※]
 美術館長 石堂 裕昭[※]
 郷土歴史博物館長 坂 靖志[※]

<教育委員会事務局>

教育部長 林 俊宏
 少年対策参事官 松倉 伸雄
 教育次長 坂下 哲也
 教育総務課長 馬來田 善準
 学校教育課長 坪川 修一郎
 保健給食課長 木下 武明
 生涯学習課長 山本 桂一郎
 青少年課長 松田 玲子[※]
 スポーツ課長 中嶋 靖利[※]
 文化財保護課長 天谷 賢一[※]
 図書館統括館長 小倉 敏之[※]
 教育総務課副課長 名津井 章
 教育総務課課長補佐 廣部 嘉寛
 学校教育課課長補佐 谷口 麻子
 教育総務課主幹 藤井 由文
 教育総務課主査 池田 拓朗

※協議事項(1)にのみ出席

5 協議事項 (1) 福井市教育に関する大綱の改定について
 (2) 学校規模適正化の進捗状況について

6 議事の経過

発言者	発言内容
事務局 (教育総務課副課長)	ただ今から、令和3年度第2回福井市総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、東村市長から御挨拶をお願いいたします。
市 長	— あいさつ —
事務局 (教育総務課副課長)	ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表して、吉川教育長から挨拶をお願いいたします。
教育長	— あいさつ —
事務局 (教育総務課副課長)	ありがとうございました。それではここからの進行を東村市長をお願いいたします。
市 長	それでは、会議を進めます。本日は協議事項が2つあります。まずは、前回の会議からの協議事項である「福井市教育に関する大綱の改定」について協議を頂きたいと思います。事務局から説明をお願いします。
事務局 (教育総務課長)	— 資料に沿って説明 —
市 長	ありがとうございました。ただ今の説明について、御意見等がありましたら、お伺いしたいと思います。
教育長	概ね前回出た意見は、各所属で協議し、修正していますので、どこか問題があればということですが。
市 長	先ほどの事務局説明にもありました通り、教育振興基本計画をこの大綱と合わせながら策定しているの、そちらに具体的な事業が入る形となります。
	大綱の方は、全体的な枠として、こういう方針で教育を進めていくというところで抜け落ちているところがあればよいかなと思います。
春木委員	「福井」の言葉の表記について、基本理念ではひらがなになっていますが、方針の中では、漢字に変えています。どういう意図をもって使い分けていますか。
事務局 (教育総務課長)	前回の大綱策定時の経緯も確認の上、適切に使い分けていきます。
教育長	表現としてはひらがなのほうが柔らかい感じがするが、方針のところではひらがなにするとどうかなとは思いますが。
春木委員	漠然とひらがなで表現した方がいいのかなとも思いますが。

事務局 (総合政策課長)	教育に関する大綱は、総合計画を踏まえて作成しています。総合計画の将来都市像が、「みんなが輝く全国に誇れるふくい」としておりました、その「福井」はひらがなで示しています。そこを踏まえて基本理念のところもひらがなで「ふくい」と表現しているところです。
市 長	方針5や方針10で出てくる「福井」は漢字だが、これは福井市という地勢的な意味合いということになるかと思います。
事務局 (教育部長)	事務局でまた一度確認し、整理します。
市 長	他によろしいでしょうか。 それでは、福井市教育に関する大綱については、事務局にて今ほどの御意見の事項について確認の上、大綱の改定作業に取り組んでいただきたい。 次に、「学校規模適正化の進捗状況」について、協議いただきたいと思えます。
事務局 (教育総務課副課長)	ここで、関係所属以外は退出させていただきます。しばらくお待ちください。 — 事務局入替え —
事務局 (教育総務課副課長)	それでは再開いたします。
市 長	それでは、事務局から説明願います。
事務局 (学校教育課長)	— 資料に沿って説明 —
市 長	ありがとうございました。 ただ今の説明について、皆様の御意見をお伺いしたいと思います。
多田委員	学校規模適正化に関しては、複式学級の解消ということが前提ということでしょうか。
事務局 (学校教育課長)	複式学級となるぐらいの小規模校が一つの目安です。
多田委員	意見交換会時の意見を見ると、地域が現状のまま少人数で良いという意見がありますが、それが合意形成の結果となってもよいのか、それともそうならないように粘り強く合意形成するのか、今後の方針はどうなるのでしょうか。
教育長	委員おっしゃるように、地元の意向が基本的に少人数でよいとまとまっていけるのであれば、その方向で行くという形になると思います。 元々、複式学級がだめだということではなくて、極めて少人数になるということに課題があるところから議論となっていますので、それでも自分の地域はそれでよい、それが地域のあり方だと言われたら、そこは尊重したいと考えています。

ただ、前々から議論になっているように、校舎の長寿命化のタイミングと合わせていかないといけないので、一旦はそういう合意になって長寿命化するとさらに30年ほど校舎は使えるようになるのですが、その間に子どもがどんどん減っていくということも念頭に置いて話しています。その上で合意形成を図っていくという形はあると思います。

多田委員

住民の方に複式学級はやめましょう、ということで統合したが、何年後かにまた複式学級に戻った場合、何のために統合したのかという話にならないのでしょうか。

教育長

各地区には、現状だけでなく、今後の予想人数も示しております。例えば、10年後に統廃合しなくてもいずれこういう状況になりますとか、統廃合を行ったとしてもまたその10年後には複式学級になる可能性がありますとかということがありますので、そこが判断の難しいところです。

それなら、近隣の2、3校を統廃合するのではなく、もっと広域的に統廃合したほうがいいのではないかと、新しい学校を建てて、その学校に集めるというような方法はできないのかという御意見もありました。

そうすると、その地区だけの合意形成だけでなく、もっと広範囲の合意形成が必要になります。

また、市全体のビジョンもある程度示さないといけなくなります。

このままではいつまでも話がまとまらないと思いますので、ある程度期限を決めて話をまとめていかないといけないと思います。校舎は古くなっていく、子どもの数は減っていく、でも議論は進まない、という状況は避けたいと思っております。

統廃合をしてもいずれ少なくなっていくことにはなりますが、そのあたりも踏まえ、説明会のときにはどのあたりまで説明していましたか。

事務局
(学校教育課長)

令和10年度までの子どもたちの在籍者数予測を示しながら、今後の経緯をお話しております。

実際に、意見交換会の中でも、それ以降のことを懸念する声は出ておりました。

もう少し長いスパンで考えて、例えば段階的に合併を進めるというやり方もあるかと思えますし、さらに長いスパンで考えて新しい学校を創設するなど広範囲にやっていく案も当然考えられるかと思えます。

そのあたりの具体的な案を今後、示していく必要性は感じております。

事務局
(教育総務課長)

併せまして、資料3の2ページ目の右側ですが、第1ステージから第3ステージがありまして、今回、地域の意見交換会というのが第1ステージにあたります。

第2ステージに移っていくにあたりまして、この時期を概ね1年から2年程度で、地域が行政側と一緒に考えていくということとなります。

そのあたりの目安をお示ししております。

春木委員

今後の進め方につきまして、北部地域については、小学校2校化はもう決まっている段階かと思えますが、中学校に関しては何か意見が出ているのでしょうか。

また、殿下地区の方は、地元が中学校の廃校は仕方ないと考えていますが、小学校の休校というのは具体的にどういう考えなのでしょうか。

事務局
(教育総務課長)

まず、北部地域につきましてご説明いたします。

今、北部地域につきましては、基本計画の策定を行っているところでございます。9月末までに3回の委員会を開く中で、小学校の2校化と中学校の移転新設ということで、新しい学校は森田地区と河合地区の小学校を対象とした新しい学校として、JRの西側の方、北体育館の東側に当たる場所に新しく建てるという方向性が固まっております。その後、第4回委員会でこういった学校にしていくべきかというようなご議論をいただきました。さらに12月に入りましてからPTAや次の子育ての世代、まだ子どもが小さい人たちなどにお集まりをいただきまして、2回のワークショップを行いました。

どんな学校がいいのかというようなことについて御議論をいただいたところでございまして、そういった議論の内容・御意見を踏まえまして、年度内の2月に基本計画の決定をしていくような段階でございまして。

それに基づきまして、来年度から基本設計、実施設計、その設計に2年間かかり、その後建設に2年間ということになっていきます。

また、用地の取得につきましても、今、地権者と御話をさせていただいているところでございますが、来年度取得、その後の造成に向けて取組を進めているところでございます。

予定としましては、ある程度順調に進んでいると考えております。

事務局
(学校教育課長)

殿下地区の小学校の件でございまして、今年度は小学校に11名在籍していますが、今後、子どもがあまり入ってこない状況になるということが予想されております。

卒業すれば、人が減っていくということで、在籍者がいなくなれば休校という形になります。また、途中で人数が減ってきて、他の学校へ変わりたいというような保護者の意向が出てくれば、そのタイミングで休校になるかもしれません。

休校のタイミングは、保護者の意向を聞きながら、進めていきたいと考えております。

春木委員

基本計画の策定というものが、最後の第3ステージに出ています。例えば、合意形成されたところから出していくのか、それとも全部がまとまるまで出さなくて、全部がまとまってから出すのか、この辺りはどう考えていますか。

事務局
(教育総務課長)

学校規模適正化基本計画の策定は、必要に応じてということになります。例えば、今の北部地域であれば、学校を2つに分ける、さらに中学校を新しく造るという大規模な編成になります。これは基本計画作成が必要になりますが、例えば、小さい学校がどこかと一緒にくっつくということであれば、施設そのものの改修も特段行わず、子どもたちが動くだけで規模適正化のステップが終わりますので、そういったものについては基本計画と言ったものを具体的に作ることなく進めていくということになります。

その後、こういった単位で規模適正化を進めていくかによって、基本計画を作ったり作らなかったりというケースが出てくることとなります。

教育長

本来なら、例えば他市町がやっているように、何年までに学校をこれだけの数にしますなどと言うのが正しいのかもしれませんが、福井市の場合にはかなり難しいのが現状だと思います。今、提言にもあったように8つの地区について議論をしていく中で、できるだけ段階的という話もありました。合意形成があったところから隣接の学校に入ってしまうのか、地区

割を変えるのか、そういったところを計画としてそれぞれの地区で考えていくという方式になります。本当は、何年までに何校にしますと言うと一番わかりやすいのかもしれませんが、それは特に街中も含めて考えていくと難しいところです。

市長

福井市の中心部は、順化地区であれ、宝永地区であれ、また、旭地区、日之出地区、湊地区も非常に面積が小さい地区になります。今までは、これらの地区にたくさんの世帯が生活されていて、アパートやマンションが建てやすい環境にありました。

しかし、人口減少や核家族化により、だんだんその中心部の人たちの数が減ってきています。周辺の地域に、広い土地を求めて居住スペースを移すという方が多くなってきています。

そうなったときに、学校というのが、順化なら順化地区に学校一つというのは、考えてみるともう少し大きいエリアで学校を一つにしてもいいんじゃないかという議論もあります。

しかし、やはり歴史がずっと積み重なってきていますので、一緒になりなさいということにはなかなかいきません。地元の方たちが、あそこの地区とは仲もいいし、連携していろいろなことしているのと一緒にしてもいいよというような話があればできるかもしれません。

そういう御意見をいただけるかどうかということも含めて、今回、いろいろと各地区へ出回って御意見を頂戴しているという状況かと思えます。

春木委員

市長が今言われた空洞化の地区の学校再編というのは、ここには入っていないのでしょうか。

事務局
(学校教育課長)

先ほど説明した一つの目安である複式学級というところで見えていくと、現段階では、今出ていました順化や宝永などという地域は、それが当てはまらないので、今回の提言の対象にはなっていません。

教育長

元々、国から示されてるものとしては、12学級から18学級が適正規模という、文部科学省の目安はあります。それは、例えば、いじめなどの問題になったときにクラス替えが可能な規模というのが国の考え方ではあります。

しかし、それを言っていると、街中もどんどん再編していかないといけないことになってますが、これはまず難しいところです。

1学年1学級であっても、そこはまだ教育の中身としては問題ないということが一つの判断なので、極めて小さい規模をとにかく何とかするべきではないかということが答申の中身です。ただし、何人以下なら考えるという難しいので、複式学級のあるところでまずは考えましょうかという中身になっています。

そのため、街中もこれからどんどん少なくなってきて、複式が考えられるようになってくると、そこは考えないといけなくなってきます。ただし、今後10年ぐらいの間では当面はありません。

街中は、校区の区域割を変えるだけでかなり人数が変化します。公民館とかの関わりもありますから、難しい部分かなと思います。今のところ、街中のことについては、議論はしていません。

多田委員

子どもたちの学ぶ環境として複式学級解消というのと、みんなそれはいいねという話になると思います。ただ、先ほど出ていたその地域のコミュニティが、学校がなくなるというのと、学校中心で地域コミュニティが成り立

っているところは心情的になりがちかと思えます。

地元の意向を聞いた上で旧校舎をどう利用していくかというときに、福井市以外の県内でいろいろ統廃合しているところがあると思いますが、そこで学校をどう利用して地域のコミュニティに活かしているかという事例をその地域の方に参考に見てもらって、できたら現地の行政がアンケートを取って、ちゃんと地域コミュニティは成り立っていますよという結果があると、少しは感じ方が違うかなと思います。

校舎やグラウンドがなくなると防災の時にどこに逃げればいいのかどうか、いろいろ不安なイメージが先に来ているのではと思います。そこをしないと、いつまでたっても環境が変わらないままになってしまうと思います。そういういい事例があったら教えてください。

教育長

例えば、あわら市の波松小学校が廃校になりました。

今、そこは、地域の方がカフェを作って、お母さんとかおばあちゃんとか自分が作ったものを持ち寄って販売したり、地域の憩いの場にしたりという活用例があります。

また、坂井市の方で竹田小学校が大分前に廃校になりました。

そのあと、「ちくちくぼんぼん」（注：坂井市竹田農山村交流センターのこと）という施設になり、大学生の合宿所や宿泊施設になっていますので、活用例としては十分考えられるかなと思います。

今ほど委員さんが言われるように、学校がなくなると地域がなくなるという議論はよくありまして、今回も出てきています。ただ、決して子どもが消えてしまうのではなく、子どもはその地区にちゃんといます。議会でも答弁しましたが、仮に学校がなくなると、公民館の行事や地区の行事ができなくなるのではないかというご意見もあるのですが、そうではなくて、仮に統廃合した学校として、より広域な地区の宝をみんなで共有するという、そういう考え方もあると思います。例えば、東郷地区で言うと、花山権現などですね。それから、例えば一乗もそうですが、一乗の子どもたちが朝倉氏遺跡のガイドをやっていたりしています。

答申で東郷と一緒にしてはどうかと提言がなされているわけですが、そうなったときには東郷小学校全体として一乗のことを学ぶ、上文殊のことを学ぶというように、より広域な子どもたちの学びに繋がるので、より活性化するということが逆に期待できるという考え方があるのでないかと言っています。

決してその地域のコミュニティをなくそうとか、地域の伝統を軽んじるとか、そういうことでは決してないので、統廃合がより具体的になったときには、そのような話をしていけないといけません。確かに地域コミュニティがなくなるのではないかという不安から、反対という御意見もやはり出てきます。そのあたり、何か実際の意見の中で何かありましたか。

事務局
(学校教育課長)

存続を求める声の中の多くは、まず学校がなくなることによって地域がなお衰退していくのではないかという声は実際あって、公民館との関係性など、そういう声も出てきました。ただ、今回の提言については、子どもの学びの環境という視点からということで提言が出されています。ただ、やはりそういう意見が出ていますから、今後より具体的な段階に落としていくには、そういう視点も考慮した案を提示していく必要性はあるだろうと思います。

教育長

殿下中学校について、地元は何か具体的な考えは言っているのですか。

事務局
(学校教育課長)

地区の意向としましては、現在の中学校1年生が卒業するまでは学校を存続したいという考えがあります。そうしますと、現在、令和3年度の1年生が令和5年度末に卒業したタイミングあたりが、廃校のタイミングではないかということ在地元の意向としては聞いております。

教育長

小学校はそれ以降ですか。

事務局
(学校教育課長)

小学校については、保護者の御意向で、そのタイミングに合わせてくるかもしれないし、極端な話、来年ということもゼロではないですし、それ以降になる可能性もあります。

そこは保護者の方との考えをまた聞き取って、タイミングを図っていくという形になります。

事務局
(総務部長)

殿下地区などの地域の方は、昨年度の時点では、やはり学校をどうしても残して欲しいというような御意見が強くありました。

実はもう少し地区にお子さんがいて、そのお子さんはお母さん、お父さんの仕事と一緒に地区外の小中学校に出てきています。一緒に通勤通学をしている状況がありまして、そこはどうしても残りたい人と、小さいところじゃなくて大きいところで学ばせたいという方もたくさんいらっしゃいまして、今年度、そういった中でPTAがあのお話をまとめていただいたということだと理解しております。

殿下地区ですと、高齢化ということも大きく問題になっておりまして、そこは総務部の方では、地域おこし協力隊などで殿下地区の活性化を子ども問題や学校の問題とは別に、地域おこしに力を入れているところです。

今年度から、DXということで、特に高齢者が多いので、離れているけれども、スマホとかタブレットとかを高齢者が使えるようにして、例えば、自治会の回覧板のやりとりをするなど、そういったことにも力を入れて、殿下地区が衰退しないよう、活性化できるよう、取り組んでいます。

美山地区であったり、越廼地区であったり、いろんなところで広げていけそうだと感じながら、市として取り組んでいます。

教育長

まちづくりがどうしても関わってくるので、議会の中でも市街化調整区域が何とかならないのかという御意見もあつたりします。その辺りは我々の範疇だけでは考えられないので、そういう意見があれば、全庁的な取り組みもしていかないといけないのかなとは思っています。

美山地区は、今後、何かしていきますか。

事務局
(学校教育課長)

座談会等を開いたときには、例えば、「通学の支援は実際どうなるのか」という話ですとか、「今回の提言で、小学校と中学校の一校化ということにもなっているが、それはいつまでにそうなるのか」とか、「本当にそれがいいのかどうか、もうちょっと段階的にする方法はないのか」というような声を聞いております。

そのようなところを少し具体化して、地元の方に提示していきながら合意形成を図っていくことが必要かなと考えております。

教育長

1回目の説明は、どうしても提言の内容の説明に終始してしまった部分がありました。

美山は2回目にこれからの子どもがいる保護者と話をしたい、ということで行きましたが、ちょっと具体性に欠けたというところもあって、より具体的なものを持ってきてくれという要望が出ています。例えば、ここを一緒にしたらどうなるかとか、今の話ではないですが、通学にどれだけ時間がかかるのか、お金をどうするのかという、そういったものを示してくれというところも出てきています。

そこはより具体的に進めて行きたいので、地区の合意が得られれば、次のステージに行くことになると思います。

市長

なかなか新しいアイディアというのは難しいですね。文部科学省としては、例えば、福井大学附属の学校などのように、小学校6年生の次は、通常、中学校1年生ですけども、7年生、8年生、9年生、というような小中一貫の学校作りというものも出てきています。

そのような新しい何かを入れていかないと、なかなかこの解決策としては十分になっていかない部分もあるのかもしれないと思っています。

ただ、なかなか福井ではまだそういう環境が身近なところにはないので、それがいいよね、というように先に旗を振るということもなかなかないのかなと思っています。

ただ、さっきも話が出ていたように、その学校をカフェにするとか、いわゆる宿泊機能を持たすとか、というようなこともあります。

美山地区では、6校あったのが3校になり、廃校にした3つは、そういうようなキャンプや宿泊的な要素も持った格好での活用もしているところもあります。

ただ、地元の人がだんだん減っていくと、そのところへも人が集まるようにならないというところがあります。必ずしもうまくいっているところばかりではありません。

そのような中、順化地区が、順化公民館を解体し、順化小学校の中に公民館を設置改修して作ったということがありました。今回、殿下が検討されたこととして、公民館が非常に古くなって老朽化し、また、階段で2階3階まで行こうすると、お年寄りの方の多い殿下地区では非常に不便というようなこともあります。そのため、公民館をとにかく整備したいという希望が地元にはあるので、そちらの方が優先されているという部分もあったのかと思います。

春木委員

福井市の場合、今までの話を聞いていると、地元の合意形成をどうしようかということかと思っています。例えば、大野市は、ぽんと計画が出ていたと思うのですが、それに比べればずいぶんいいと思います。事務局の方は大変だと思いますが。

その合意形成がここしばらくの間でできたとして、その有効な期間というのはどのくらいで考えていますか。例えば、10年ぐらいは持つだろうか、あるいはもっと持つだろうか。

事務局
(学校教育課長)

この提言ですと、令和10年度ぐらいまでの現在の子どもたちの人数が予測できますので、そのあたりを視野に入れているところです。
ただ、一律に進められないということで、それよりも早まるようなところもあれば、もっと時間をかけなければならないところがあります。
もし、時間をかけるところが出てくれば、今の提言によらず、その再編案は都度見直しをしながらやっていく必要性が出てくるのではないかと
いうところです。

教育長

臨海地域について、資料3の1枚目のところの2番(国見地区)の議論の中にもありますが、提言上では、臨海地区・海岸地区は、2校にまとめた方がいいのではないかと提言ですが、やはり実際に話を地域でいろいろ御意見を伺うと、「いや、10年ももたないでしょ」という意見は確かに出てはいます。そうなると、臨海地区の海岸地帯だけではなく、資料にあるように、川西地区全体でも考えないと、10年経ったらまた元の木阿弥じゃないかということになります。
今はちょうど地域ごとに話をしてきましたけども、もし意見があっちでもこっちでも出てくるようなら、また市としてより広範囲で考えないといけないと思います。
海岸部なので、校舎が古くなってきていることから、例えば、丘の上に建ててみんなを集めるという話もあるかと思えます。道路整備とか、いろんなことが関わってきますので予算もかかります。でもそこは、総務課長も言ったように、ここ1、2年の間にある程度の大枠は各地区で何か話がまとまるといいなとは思っています。とりあえず、この10年間の子どもの動向は掴めています。

市 長

臨海地区ですと、ほとんどの方がもっと集まって大きい学校にしようということには、考え方としては賛成だと言われます。しかし、その学校を造るところは自分たちの区域にということになるので、なかなか先に話が進まない現状もあります。

教育長

造るにしても、どこに建てるか、どこに集めるかというところは、今も地区ごとに話していますが、やはりまず自分のところという意見は当然出てくるのですが、そこはもう少し議論を深めていく必要があるかなと思えます。

市 長

他にはよろしいでしょうか
今ほどいろいろと話の中に出てきましたけども、学校の施設は、高度経済成長時に木造の建物からすべて鉄筋化という形で造り直して、今日にまで至っています。
しかし、それがほとんど老朽化を極めてきました。このままいってしまおうと、短い期間で使えなくなってしまうので、今のうちに改修工事を行うなりして、さらに長く使えるようにするというのが、考え方としてあるわけです。
ただ、それぞれの地域・学校が抱えている問題もあって、それを解決しながら前へ進むことができれば一番いいということで、それぞれ地域のところの御意見も伺いながら、今後、どのように進めるといいかということ整理していただいています。
先ほどの殿下地区のように、公民館の老朽化問題があるようなところで、公民館を置く場所がないということであれば、学校を活用するなど、

考え方を大きく広げながら整理し、学校施設のあり方というものを考えていただいています。

右側では地区の皆さんと議論を進め、左の方では、文部科学省などでの新しいやり方やいいものがないかということを探して、その両方を進めながら、いい方法があったらそこで落ち着くという形が今の福井市のやり方と言えるかなと思います。

だんだん時間もせまって来ましたが、いろいろと各地区の意見もある程度はまとまったようですから、それに基づいて優先的な位置づけにあるところ、森田や殿下については、ある程度方向性が地元でも理解を得られているので、計画を立て、前に進めていきたいので、よろしく願います。

それでは、本日予定していた協議事項については以上ですので、進行を事務局の方にお返します。

事務局
(教育総務課副課長)

本日は教育委員の皆様、並びに東村市長におかれましては、活発な御協議と円滑な会議の進行に御協力いただきましてありがとうございました。

教育に関する大綱につきましては、御指摘された箇所の見直しを行い、後日、教育委員の皆さまへ御確認させていただきます。それでは、以上をもちまして令和3年度第2回福井市総合教育会議を閉会といたします。本日はありがとうございました。